

追悼の辞

本日ここに、御遺族や御来賓の皆様
の御参列をたまわり、本市の戦没者、殉職
者七千二百三十二柱ならびに一般戦災死
没者百一柱の合同追悼式を挙行するに
あたり、謹んで哀悼の誠を捧げ、心から
御冥福をお祈り申し上げます。

顧みますと、昭和二十年の終戦から、
七十七年目の夏を迎えました。

また、本日、八月六日は、本市が大空
襲を受け、市街地の大半が焦土と化した
悲惨な歴史を刻んだ日でもあります。

歳月が流れてもなお御遺族の皆様の深い悲しみは、決して消えることなく、その心情を拝察いたしますとき、お慰めのことばもございません。

私たちが今日、享受している平和と繁栄は、明治以降の幾多の国難に際し、国内外の苛烈を極めた戦闘の中で、祖国の安泰と愛する家族を案じつつ戦場に倒れた方々、激しい空襲によって命を落とされた方々、公共の安寧のために殉職された方々の尊い犠牲の上に築かれたものがあります。

また、かけがえのない肉親を亡くされた悲しみに耐えながら、多くの苦難に立ち向かい、家族を守り、今日まで歩んで

こられた御遺族皆様方の努力の賜物であります。その御労苦に対し、衷心より敬意を表する次第であります。

今なお、感染拡大が続く新型コロナウイルス感染症を克服し、一日も早く安心してぎわいのある日常を取り戻すため、世界の誰もが力を合わせなければならぬ。いこの時に、自国の利益のみを追求し、異なるものを排除しようとする動きが見られるなど、軍縮への流れが逆行し始めていることに対し、深い悲しみを感じます。

そのような中で、本市においては、「本市が持つ三つの宝」の一つである「人間

力あふれる子どもたち」を輝かせる施策に引き続き取り組んでおり、本日は石山小学校の児童代表の皆様にも御参列いただきありがとうございます。

国民のほとんどが戦争の悲劇を知らずに育った世代となった現在、未来永劫、悲しみの歴史を繰り返すことのないよう、過去を謙虚に振り返り、悲惨な戦争の教訓を風化させることなく、これからの世代につないでいくことは、今ここに生きている私たちに課せられた重要な使命であります。

これからも平和への不断の努力を続けてまいりますことをここにお願い申し上げます。

結びに、戦没者、空襲犠牲者各位の御
霊が、永遠に安らかでありますこと、そ
して、今後とも、わが郷土、都城の繁栄
と平安を見守りくださることを願い、併
せて御遺族をはじめ、御参列の皆様方の
御健勝と、御多幸を祈念申し上げ、追悼
のことばといたします。

令和四年八月六日

都城市長 池田 宜永